

# 市民病院だより

## 乳腺濃度を「ご存じですか？」

マンモグラフィ撮影認定技師  
友田美代子

ここ数年、ブログなどを通して、乳がんだと公表される人も増え、身近ながんになってきました。最新のがん統計で日本人女性の罹患率の1位は乳がんです。12人に1人が乳がんと診断されています。

昨年、乳がん検診についての記事が新聞に載っていたことをご存じでしょうか。それは高濃度乳房（デンスプレスト）についての記事でした。



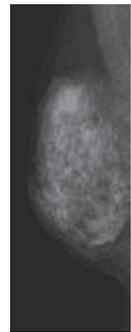
対策型乳がん検診で採用されているのは、マンモグラフィ装置による乳がん検診のみです。

しかし、このマンモグラフィ検査も万能ではありません。苦手とする乳房があります。それが「高濃度乳房」と言われるものです。

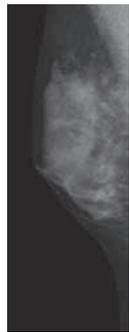
では、高濃度乳房とはどんなものでしょう。乳房は脂肪と乳腺組織から作られています。乳房の乳腺の割合を乳腺濃度と言います。乳腺濃度には個人差があり、年齢や妊娠、授乳によって変化します。一般的に加齢とともに乳腺濃度は下がると言われています。



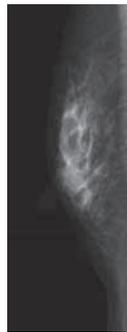
乳腺濃度は乳腺の割合が多い順に  
①極めて高濃度



②不均一高濃度



③乳線散在



④脂肪性



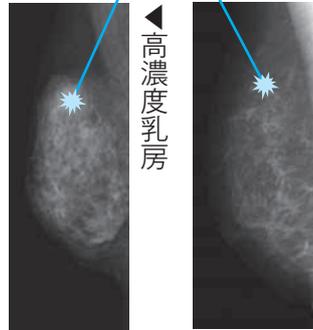
と4つに分けられています。乳腺の割合の高い、極めて高濃度と不均一高濃度を合わせて高濃度乳房（デンスプレスト）と呼ばれています。

マンモグラフィ装置で撮影すると脂肪は黒、乳腺は白く映ります。また、腫瘍（乳がん）も白く映ります。高濃度乳房の場合、乳房の多くの部分が強い白色で映しだされるため腫瘍が検

出されにくくなってしまいます。そのため高濃度乳房の人は脂肪性乳房の人より異常が発見されにくいと言われています。

▲脂肪性

▲高濃度乳房



この高濃度乳房は日本人の4割を占めると言われており、特に40代に多いとされています。高濃度乳房は、乳腺組織の割合が多い状態を指すもので病気を意味するものではありません。

また、がんを予兆するものでもありません。日本人に多く見られる乳房で、決して病気ではありませんので、過度に心配する必要はありません。

高濃度乳房の人は、検診後であってもがんの心配はないということではなく、定期的なセルフチェックを行い、自覚症状がある場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

## お知らせ

小児科・産婦人科・自由診療の夕方診療を行っています。  
(毎週木曜日)

詳細は、市民病院ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>